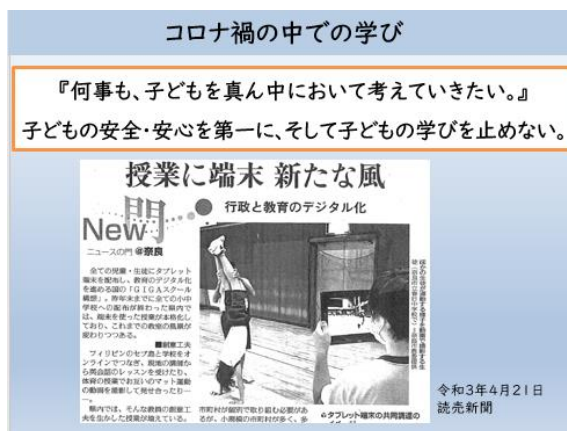


■ コロナ禍の中での学び

一昨年度末から続くコロナ対応のため、学校では、これまでと同じようなグループ活動や対話型の活動が出来にくい状況になりました。数年前までは、「黒板とチョーク。子どもと向かい合って、先生が説明するだけの一斉授業に終わってしまうことなく、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり」を求めてきましたが、今は、新型コロナウイルス感染症がそうした学びの前に立ちふさがり、大きな壁となっています。


こうした中、私は教育長としてこの一年間、皆さんとともに考えてきたことは、「子どもの安全・安心」を第一にすること。そして「子供の学びを止めない」ということです。この一年、学校現場では様々な工夫をして教育を進めてきています。



■ 学びの保障、学校の舵取りを


学びの保障を

- ◆ 学びを保障するための授業ライブの配信など子どもたちの学びを止めない



学校の舵取りを

- ◆ 学校で起こる様々な出来事を想定して
- ◆ 市教育委員会と一緒に
- ◆ 地域の協力も得ながら



4月20日には奈良市独自の「緊急警戒警報」が出されました。

学校での対応については、感染予防の徹底を図ることはもちろんですが、「感染不安により登校を希望しない児童生徒に、小学校1年生を除いては、学びを保障するための授業ライブの配信を行う」というお願いもしました。

そして、今、こうした状況下においては、災害レベルの対応をお願いしたいと思っています。校長には先頭に立って、的確な判断のもと対応をお願いしなくてはなりません。

また、学校で起こる様々な出来事に最悪を想定しながらの学校運営をお願いします。市教育委員会もできる限りの支援をしていきます。困った時には教育委員会にも相談してください。今まで私たちが経験したことのない課題の対処には悩むことがたくさんあると思います。それは、正解が一つではないからです。校長一人で抱え込まずに一緒に乗り越えていきましょう。

また、「学校のためならば」と、地域の方々も協力をしてください。地域は学校の力強い応援団です。すべて学校で対応していくことには限界があります。地域との連携もしっかりと取り、学校の舵取りをお願いします。

■ 一条高等学校、一条高等学校附属中学校について

令和4年度から一条高等学校附属中学校が開校します。

また、附属中学校の開校に加え、一条高等学校の普通科を県下全域からの募集としました。

附属中学校では、探究的な学びや教科を横断した学び等、令和の時代の新しい教育を、中高一貫の中で行っていますが、一条高等学校においても、そうした教育を普通科のカリキュラムの中でも実現していきます。

一条高等学校の初代校長である渡邊真澄先生も、開校式の挨拶の際、「一条高校のみがもつ教育の特色と善美なる校風を樹立して、もはや一条高校は、どうしてもなくてはならぬ学校であり、他と置き換えのできない特色ある学校をつくりたいと思っています。」と設立の意気込みを熱く語っています。そして、開校した翌年、昭和26年には全国初の外国語科を設置し、その外国語科については、他に類を見ない学科であることから、県下全域募集と、広く門戸を開いたのでした。

一条高等学校について

初代校長 渡邊 真澄 開校式の挨拶

『一条高校ができたため、入学難を、よほど緩和することができたというだけにとどまるならば、今ほどもかく、将来の一条高校としては、はなはだ物足らなさを感ずるものであります。』

『一条高校のみがもつ教育の特色と善美なる校風を樹立して、もはや一条高校は、どうしてもなくてはならぬ学校であり、他と置き換えのできない特色ある学校をつくりたいと思っています。』

『やがて近い将来には普通科のほか、二三の実業課程を加え、総合制の高等学校をつくるのも一方法だと思います。例えば外国語科を設けて、英、仏、独等の語学を科し、あらゆる外国人に接していける国際的な人をつくること。』

◆ 一条高校 令和4年度入学者選抜について

学 科、募集人員、選抜方法	通学区域
普通科(200人)、一般選抜	奈良県全域
外国語科(80人)、推薦選抜	

「多様な生徒一人一人に応じた探究的な学び」
「実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な学び」

中央教育審議会答申
「令和の日本型学校教育の構築を目指して」より

県内各地域の特色ある文化やそれぞれの中学校における特色ある学びをしてきた子どもたちと切磋琢磨し、お互いの良さや違いを認め合いながら成長して行ける学校づくりを目指す。

附属中学校の開校と一条高等学校の普通科の県下全域からの募集。このことは、小学生や中学生はもちろんのこと、高校生にとっても大きな関心事です。

新しくスタートを切る一条高等学校は、附属中学校とともに県内各地域の特色ある文化やそれぞれの中学校における特色ある学びをしてきた子どもたちと切磋琢磨し、お互いの良さや違いを認め合いながら成長して行ける学校づくりを目指します。

小学生やその保護者には、附属中学校がどのような学校で、どのような教育をしようとしているのか。そういったことを正確に伝えてください。中学生やその保護者には、一条高等学校がどのような教育をしようとしているのか、なぜ県下全域募集に切り替えたのかを正しく伝えてください。

■ 奈良市の目指す子ども像

一条高等学校も新しくできる附属中学校も、皆さんの学校の目指す子ども像には変わりはありません。

今年3月に策定した、奈良市教育振興基本計画に示された三つの子ども像、「みずから学ぶ子」・「とことん学ぶ子」・「つながり学ぶ子」です。

目指す子ども像は、どの学校であっても変わりませんが、学校で行う教育の方法は一つではありません。中高一貫の附属中学校でしかできない教育もあれば、逆に、地域と繋がりながら皆さんの学校だからこそできる小中一貫教育もあります。それぞれの学校で、子どもたちや地域の実態に応じた、それぞれの学校の良さを生かした学校経営をお願いします。

奈良市教育振興基本計画 目標・目指す子ども像

目標

生涯にわたり学び続け、
他者と協働して未来を切り拓く人間の育成

目指す子ども像

みずから学ぶ子 とことん学ぶ子 つながり学ぶ子

これからの奈良市の教育を示す